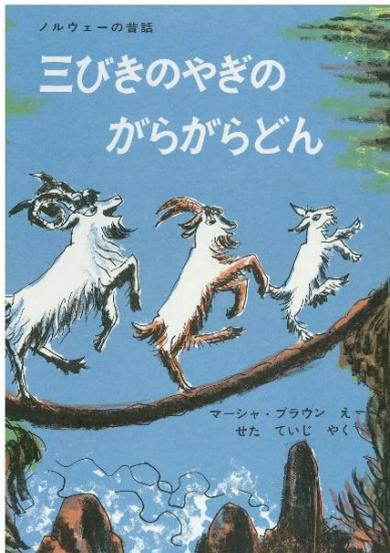


『三びきのやぎのがらがらどん』



ノルウェーの昔話』

マーシャ・ブラウン 絵
せた ていじ 訳
福音館書店 1965年

なんてだ。

今回も古い外国の作品『三びきのやぎのがらがらどん』を紹介します。

おかしなお話です。

ストーリーは単純、大中小 3 びきのやぎが山を移動して草葉へ行きました。途中でトロルというノルウェーではおなじみの妖精とトラブルがあったので、トロルを始末し無事到着、たくさん草を食べました、というものです。

なんてだ・・・3びきのやぎはみな、「がらがらどん」という同じ名前でかわいくない。
なんてだ・・・小・中のやぎは自分勝手すぎる。仲間を売るようなことを言うのです。
なんてだ・・・大きいやぎが強すぎる。トロルに対して容赦なさすぎることをします。
しかもその絵がおかしすぎるのです。

最大のなんてだ・・・なぜこの『三びきのやぎのがらがらどん』が度々「良い絵本」・「おすすめ絵本」に挙げられるのか・・・。

この本はアメリカで 1957 年に発行されてからずっと、世界の子どもたちに読まれてきた本です。日本では 1965 年からずっと。私もこの本がなんとなく好きです。絵が魅力的、お話も全てが当然という感じで流れが良い。ときどき残酷で子どもに媚びない昔話に出会いますが、『三びきのやぎのがらがらどん』もハードボイルド。トロルの間抜けな素直さに比べて、最後のページの弱く素直なはずのやぎたちの悪賢い目がなんとも素敵でしょ。さあどう読むか・・・

夏のお昼寝の前にひと笑い。楽しく読んで下さい。

2020年8月6日 梅崎啓子